2023/1/23

一般社団法人 日本翻訳協会
Japan Translation Association

一般社団法人 日本翻訳協会

翻訳日本語表記ガイド

Copyright© Japan Translation Association. All rights reserved.

目　次

1 文体 4
2 改行 4
3 使用可能な文字 4
3.1 項目名 5
3.2 具体例による説明 5
4 漢字 6
5 仮名 7
5.1 仮名遣い・送り仮名 7
5.2 まぜ書き 7
5.3 仮名書き 8
5.4 仮名書きと漢字を使い分けるもの 9
5.5 読み仮名 9
5.5.1 読み仮名の要否 9
5.5.2 読み仮名の付け方 10
6 外来語 10
7 アルファベット 11
8 約物の使い方 11
8.1 句読点 11
8.1.1 句点 11
8.1.2 読点 12
8.2 中黒 12
8.3 疑問符・感嘆符 12
8.4 コンマ・ピリオド・セミコロン・コロン 13
8.5 括弧類 13
8.5.1 引用符 13
8.5.2 かぎ括弧 14
8.5.3 丸括弧・波括弧・角括弧 14
8.5.4 亀甲括弧 15
8.5.5 括弧の入れ子 15
8.6 空白 15
8.7 以降の省略表記 15
8.8 ハイフン 15
8.9 長音符号 16
8.10 波ダッシュ 16

8.10.1 波ダッシュを記事名に使用する場合 16
8.11 リーダー 16
8.12 丸 17
8.13 罫線 17
8.14 繰返し符号 17
9 略記号 17
10 数字 17
10.1 漢数字 18
10.2 ローマ数字 18
10.3 丸数字 18
11 単位 19
12 年月日・時間 19
13 数式 21
14 人名 21
14.1 日本名以外の人名 21
15 地名 22
15.1 国名などの「旧」表記 22
16 著作物名 22
17 学術用語 23
18 略語・略称 23
19 俗語・俗称・隠語・業界用語 23
20 差別語・差別表現 23

１．文体

・漢字仮名交じり文を使用します。
・文については、常体（……である、……だ）又は敬体（……です、……ます）で統一します。
・箇条書きは、単語や短い文を並記するときに用います。長い文になると、箇条書きにする意味が薄れます。

２．改行

・段落をあらためるときは 1 行空きとします（改行キーを 2 回続けて打ちます）。
・段落の途中には、改行を入れないでください。改行した箇所に余分な空白が入ることがあります。

３．使用可能な文字

・Unicode で規定されている文字に必要なものがあれば、すべて使うことができます。ただし、JIS X 0201 のラテン文字類にも JIS X 0208 にも規定されていない文字は、できるだけ使わないようにしてください。
・ラテン文字（英字）やアラビア数字など、JIS X 0201 のラテン文字類（いわゆる半角英数字）で規定されているものはそれを用います。そうでない漢字・平仮名・片仮名などは、JIS X 0208 に規定されているもの（いわゆる全角文字）があればそれを用います。JIS X 0201 の仮名文字類（いわゆる半角カナ）は使わないでください。
・JIS X 0201 のラテン文字類の記号のなかには、場合によっては全角形を用いる必要があるものや、全角形を用いてよいか意見が分かれているものもあります。詳細はそれぞれの記号についての説明を参照してください。
・空白は欧文間隔（いわゆる半角空白）“ ”(SPACE U+0020) を用います。和字間隔（いわゆる全角空白）“　”(IDEOGRAPHIC SPACE U+3000) は使用しないでください。これは、ブラウザによっては全角の場合に適切に割り付けが行われないからです。
・なお、Windows-31J に収録されている特殊文字、および、ベンダ選定漢字は、Unicode の基本多言語面（BMP）上にすべて登録されていますが、Unicode 用フォントを取り揃えていない環境から閲覧される場合の便などを考え、なるべく使用しないのが望ましいです。

３．１．項目名

・項目名についての詳細は、記事名の付け方に従います。

・一般の項目名で使用できる文字は、

　・JIS X 0201 のラテン文字類。

　・罫線素片・私用領域の文字（いわゆる外字）を除いた JIS X 0208 で規定されている文字。

・例外的に、文字（漢字を除く）そのものについての記事では、システム上の使用可能文字の制限内の文字が使用できます。

３．２．具体例による説明

・以下の文字は、いわゆる半角を用います。

　・ラテン文字

　　ＴＨＥＱＵＩＣＫＢＲＯＷＮＦ…

　　ｔｈｅｑｕｉｃｋｂｒｏｗｎｆ…

　・アラビア数字

　　０１２３４５６７８９

　・記号

　　！"，．＃＄％＆'（）＊＋－／：；＜＝＞？＠［］＾＿｀｛｜｝

　　・次の記号は、いわゆる全角を用いる場合があります。下記を参照してください。

　　！（）：＝？［］｛｝

　　・次の記号の引用符としての使いかたは、括弧類を参照してください。

　　"'

・以下の文字は、いわゆる全角を用います。

　・片仮名

　　タ キ ニ イ デ ナ ツ ム ワ レ ヲ ゾ ……

　・漢字

　　天 地 玄 黄 宇 宙 洪 荒 ……

　・記号

　　、 。 ・ 「 」 ゛ ゜ ～ ……

　　・「～」に似た形の別の文字があります。詳しくは波ダッシュを参照してください。

・空白には、いわゆる半角の空白「 」を用います。いわゆる全角の空白「　」は使わないでください。

・いわゆる半角の記号のうちには、場合によっては全角形も用いるという合意のある文字があります。

　・＝ については、人名などを参照してください。

・全角形も用いるかどうかについて、意見が分かれている文字もあります。
・ ： については、本文中で全角形を用いるか用いないかは統一されていません。
・( ) [ ] { } については、括弧類を参照してください。
・ ?! を疑問符・感嘆符として使う場合については、疑問符・感嘆符を参照してください。

4．漢字

・漢字の字体は、原則として常用漢字表に従います。
  ・常用漢字の字体が JIS X 0208 に含まれない「頬・剝」については、JIS X 0208 に含まれている常用漢字の許容字体である「頬・剥」を使用できます。
  ・常用漢字表にないものは、JIS X 0208 の範囲で平成 12 年 12 月に国語審議会が答申した「表外漢字字体表」に示された印刷標準字体に従います。これには、康熙字典に近い字体が多くあります。
  ・簡易慣用字体（印刷標準字体ではないが使用頻度が高いもの）や拡張新字体（常用漢字表の字形に合わせたもの）は避けてください。ただし、印刷標準字体が JIS X 0208 にないものは、簡易慣用字体や拡張新字体を使うことを推奨します。
    例（括弧内が印刷標準字体で、括弧外が簡易慣用字体や拡張新字体）： 飛騨（驒）・醤（醬）油
  ・2000 年（平成 12 年）12 月時点で「人名用漢字別表」に字体が掲載されていた漢字は「表外漢字字体表」に示されていないので、現在の「人名用漢字別表」にある字体に従います。複数の字体がある場合は簡略なほうの字体を用います。
    例（括弧外の字体を用います）：亘（亙）・凜（凛）・尭（堯）・遥（遙）
・ただし、歴史的文書の引用と固有名詞の表記に際しては、常用漢字以外の漢字を使用してよい場合があります。
  ・固有名詞を用いた記事名については、一般に、通称・俗称・略称などによる記事名を作成することができます。旧字によるものと常用漢字によるものと 2 通りの表記が可能である場合については、どちらを正式名称とすべきかについてはまだ議論がまとまっていません（芥川竜之介と芥川龍之介・東京帝国大学と東京帝国大學など）。正式名称や正確な表記にあたる固有名詞を用いる場合には、より広く流布していると考えられる通称や異表記などを併記します（詳しい事情に通じていない利用者の検索・理解の便宜を図るため）。本文中の記述においては、通称表記であれ、正式名称表記であれ、統一することが望ましい表記です。
  ・歴史的文書を引用する場合には、新字体による翻訳だけを掲載してもよく、原文に忠実な形で掲載しても構いません。正確さとわかりやすさを両立させるため、併記が最も望まれます。
・専門用語の漢字・平仮名・片仮名のどれを使うかはその分野の慣習に従います。

例： 禾本科 → イネ科
弗素 → フッ素
射手座 → いて座

・ただし、専門分野とは関係のない項目の場合は気にしなくてよく、その際のリンクには「|（パイプ付きリンク）」を使うことができます。

例： 餡（あん）は[[アズキ|小豆]]を原料としている。
[表示]⇒ 餡（あん）は小豆を原料としている。

５．仮名

・ヰ・ヱ・ヲ・ヂ・ヅ・小さい「ヮ」は、使わないでください。
・固有名詞の場合、引用の場合、歴史的表記を説明する場合には、使用できます。
・小さい「ヶ」は、使わないでください。
例： １ヶ月 → １か月・１箇月
・固有名詞の場合は、使用できますが、以下に注意してください。
・地名では正式表記が「ケ」の場合も「ヶ」の場合もあります。
例： 鎌ケ谷市・茅ヶ崎市
・正式表記が揺れる場合があります。
例： 雑司が谷（地名）・雑司ヶ谷霊園・雑司ケ谷停留所・雑司谷中学校、
七里ヶ浜（地名）・七里ヶ浜駅・七里ガ浜（住所表示）

５．１．仮名遣い・送り仮名

・仮名遣いは昭和 61 年 7 月内閣告示の「現代仮名遣い」に従います。
・送り仮名は昭和 48 年 6 月内閣告示（昭和 56 年 10 月一部改正）の「送り仮名の付け方」に従います。
・歴史的文書の引用では、原文どおりでも構いません。

５．２．まぜ書き

・熟語は、常用漢字外をかなとする「熟語のまぜ書き」にせず、読みがなを全角括弧内に併記します。
例： でん粉 → 澱粉（でんぷん）またはデンプン
・JIS X 0208:1997 の第一水準・第二水準外の漢字は、まぜ書きとし、正しい文字がどのような字体か説明します。
・IBM 拡張文字を含む人名も、まぜ書きで対応します。 例： 草なぎ剛・李承ヨプ・トウ小平

５．３．仮名書き

以下の例は、かな書きとします。

・助詞

例： これ位 → これぐらい、
カエル・イモリ等 → カエル・イモリなど、
京都迄 →京都まで、
１時間程 → １時間ほど

・助動詞（国文法）

例： する様だ → するようだ

・補助動詞

例： 書いて下さい → 書いてください

・感動詞（間投詞）

例： 有り難う → ありがとう・嗚呼 → ああ

・接続詞

例： 及び → および・並びに → ならびに
且つ → かつ・然も → しかも
又は → または・若しくは → もしくは
或いは → あるいは・即ち → すなわち
故に → ゆえに・更に → さらに
尚 → なお・但し → ただし・併し
然し → しかし・反れとも → それとも
所で → ところで

・連体詞

例： 所謂 → いわゆる・彼の → あの、かの
其の → その・或る → ある

・形式名詞で本来の意味がほとんど失われているもの

例：重要な事 → 重要なこと
こうゆう風に →こういうふうに
そのような訳で → そのようなわけで
その内 → そのうち
病気の為に → 病気のために

・補助用言のうち、本来の意味がほとんど失われているもの

例： 使用して良い → 使用してよい
交差して居る → 交差している

・副詞のうち、本来の意味がほとんど失われているもの

例： 何故 → なぜ・流石 → さすが
凡そ → およそ・是非 → ぜひ
殆ど → ほとんど

・接頭辞の「御」（お・ご）

例： 御菓子 → お菓子・御見舞い → お見舞い
接頭語がつくことによって特別の意味を持つものは例外：
御所・御用達・御者

・接尾辞（接尾語）で本来の意味がほとんど失われているもの

例： 高目 → 高め・新鮮味 → 新鮮み
漢字１字の接尾語で音読みのものは例外： 和風、感傷的

・当て字

例： 誤魔化す → ごまかす・蒲公英 → タンポポ
流行り → はやり・沢山 → たくさん
面倒 → めんどう・関わらず → かかわらず（×拘らず）
散りばめる → ちりばめる（×鏤める）
「常用漢字表 付表」に掲載されている熟字訓や項目名となりうるものは例外： 山車（だし）・眼鏡 （めがね）

５．４．仮名書きと漢字を使い分けるもの

・仮名書きでは誤読の可能性がある場合は、漢字を用います。

・「従って」： 動詞で使う場合は漢字で、接続詞としては仮名で。

例： 父に従ってアメリカへ行った

・「等」： 「とう」と音読みするときは漢字で（法律名など）、「など」と訓読みするときは仮名で。

・代名詞

仮名の例： 俺 → おれ・貴方 → あなた
其れ → それ・何時 → いつ
何処 → どこ・何故 → なにゆえ

漢字の例： 私・君・彼・彼女・我々・何を

５．５．読み仮名

５．５．１．読み仮名の要否

・常用漢字表に音訓があるものは読み仮名は不要です。

・常用漢字表以外の音訓については、積極的に読み仮名を付けます。

・固有名詞は、読み仮名を付けたほうがよい。

例： 「山崎」 → 「山崎（やまさき）」・「山崎（やまざき）」

・読み仮名には丸括弧（）を用い、<ruby>……</ruby> は使わないでください。
・項目が存在しリンクされている単語は、読み仮名を省略することができます。
　例：「クジラは哺乳類である」の場合は、リンク先の「哺乳類」の項目に読み仮名があるので省略できます。

５．５．２．読み仮名の付け方

・当該記事中、初出単語に読み仮名を付け、2 回目以降は付けません。
・読み仮名は単語単位に付けます。
　例：花崗（こう）岩 → 花崗岩（かこうがん）
　　哺（ほ）乳類 → 哺乳類（ほにゅうるい）
・平仮名や片仮名がまざる場合の読みはそのまま記述します。
　・なお、読みを ‐（ハイフン）などで省略しないようにしてください。理由は、読み仮名単体で読めるようにするため、ハイフンが長音符のように読めてしまい誤読の元になるため、テキスト読み上げソフトに支障が生じるため、などです。
　例：「小林マリ子」 → 「小林マリ子（こばやしマリこ）」
　例：「野菜ジュース」 → 「野菜ジュース（やさいジュース）」
・読みが分野で変わるものは、並記します。
　例：口腔（こうくう・こうこう）……医学ではコウクウ・音声学ではコウコウ
中国・朝鮮・韓国の地名・人名については#人名・#地名も参照してください。

６．外来語

外来語の表記は、内閣告示「外来語の表記」（平成 3 年 2 月）に従います。同告示は、慣用表現を尊重していることに留意してください。
・外来語は原則として片仮名表記。
　・たばこ・かるたなど、外来語として強く意識されない言葉は、平仮名表記します。
・もとの外国語が同じでも、仮名表記の違いで日本語では別の意味に用いているものは使い分けます。
　例：ステッキとスティック・トラックとトロッコ・チョークとチャコ
・専門用語は、その分野での扱いに従います。
・長音記号「ー」は要否が不明確ならば、付ける方向で統一します。
外国の人名については#人名を、地名については#地名を参照してください。

７．アルファベット

アルファベット（ラテン文字・ギリシャ文字など）の使用は、慣習に従います。

・アルファベットを使うもの

・単位を表す記号（ただし後述の#単位も参照してください）

例： bps・m3

・化学記号

例： H2O

・商品名・ブランド名・企業名などの固有名詞 例: Windows・CI 戦略・IBM・CD-ROM・iPod

・頭字語

例： PTA・WTO・AI

・日本語の文脈であまり使われない表記はしないでください。

例： vs.・etc.

・略称表記はできるだけ使いませんが、煩雑な場合は初出の時に併記して以下は略称を用いても構いません。

例： W 杯 → ワールドカップ・e メール → 電子メール

８．約物の使い方

句点「。」・読点「、」・中黒「・」などをまとめて約物（やくもの）といいます。約物は縦書き・横書きの両方に対応するものを使うのを原則とします。

８．１．句読点

・句点は「。」、読点は「、」を使い、「, 」「. 」（全角）「,」「.」（半角）は使わないでください。

・「。。。」や「、、、」とせずに、3 点リーダーを「……」と 2 つ重ねて用います。

８．１．１．句点

・文の終わりには句点を打ちます。

・括弧類と句点が重なるときは、原則として、

・1 文だけの括弧内には句点を打たないでください。複数の文を含む場合には句点を打ちます。

例： 「こう主張した。」 → 「こう主張した」

「A は B である。また C は D である。」

・文末に括弧に含まれた文がくる場合、地の文の区切りを明確にするため、括弧の外に句点を打ちます。

例： それらには星印を冠した（運営文書を除く）。

・括弧内の文が、地の文から独立している場合には、括弧の前に句点を打ちます。

例： 辞世の句を詠んだ。「あいうえお かきくけこさし すせそたち」

・文末が「？」「！」の場合、その後に句点を打たず、直後に空白を入れます。#疑問符・感嘆符を参照してください。

・箇条書きの最後にも句点を打ちます。ただし、名詞だけを列挙する場合を除きます。

８．１．２．読点

読点は、句の区切りを明確にしたい場合や、誤読のおそれがある場合に打ちます。多すぎると読みにくくなるので乱用しないでください。

・区切りには、読点よりも中黒「・」を優先して用います。中黒を使うと誤読のおそれがある場合に、読点を用います。

・読点を打つよりも、句点で文を短く区切ったほうがわかりやすくなることも多い。

８．２．中黒

「・」を中黒または中点といいます。

・単語や語句の羅列の区切りには中黒を使います。

例： 過去・現在・未来

・外来語の単語の区切りには中黒を使います。

例： ウィンストン・チャーチル

・外来語の羅列で中黒では区別が難しい場合には、助詞や読点を使います。

例： ウィンストン・チャーチルとフランクリン・ルーズベルト

・「・・・」とはせずに 3 点リーダー2 個「……」を用います。

８．３．疑問符・感嘆符

・文末の句点（。）のかわりに「？」（疑問符・耳だれ）・「！」（感嘆符・雨だれ）を使わないでください。

・固有名詞や引用文に使われている場合は使用できます。

・予定・未公表事項を示したい場合は、単に疑問符を置くのではなく、「予定」「不明」などと書くほうが望ましいです。

・全角・半角のどちらを使うかは直前の文字に従います。

例： あれ？ Are?

・文末の疑問符・感嘆符には、直後に空白を入れ、その後に句読点は打たないでください。

例： アメリカに人類は渡り得たのだろうか？ この時代は、旧大陸ではネアンデルタ

ール人の栄えた時代だ。

・段落の終わりや、括弧などを閉じる直前では、空白を入れないでください。

例： 事故死、病死などのために既に 75 名ほどに減少していた（1 年弱で 25 名の減少！）。

・仏文の場合は、さらに直前にも空白を入れます。

８．４．コンマ・ピリオド・セミコロン・コロン

欧文中のコンマ「,」・ピリオド「.」・セミコロン「;」・コロン「:」の直後には、空白を入れます（仏文はセミコロンとコロンの直前にも空白を入れます）。

８．５．括弧類

括弧類には、次のものがあります。

括弧類

記号	名称
‘……’	一重引用符・クォーテーションマーク
“……”	二重引用符・ダブルクォーテーションマーク
「……」	鉤括弧・かぎ
『……』	二重鉤括弧・二重かぎ
(……)	丸括弧・パーレン
{……}	波括弧・中括弧・ブレース
[……]	角括弧・大括弧・ブラケット
〔……〕	亀甲括弧
〈……〉	山括弧・山がた
《……》	二重山括弧・二重山がた
【……】	墨付き括弧・黒亀甲・墨付きパーレン

・法令文（同じ括弧で入れ子にする）、JIS 規格票（“……”を使う）など、以下の説明と別の慣習があるものを引用するときは、それに従います。

・括弧類は多用しないでください。できるだけ地の文を使います。入力を'''……'''として強い強調（太字）にしたほうが適切な場合には、これを使います。

・括弧内での最後の句読点については、#句読点を参照してください。

・不等号 <、>、≪、≫ は括弧として用いないでください。

８．５．１．引用符

・英文の引用符にはいわゆる半角のものとして "..." と '...' がありますが、本来は “...” と

‘…’ のような形になります。引用符の中にいわゆる半角の文字だけがある場合は、いわゆる半角の引用符を用いてもかまいません。
・仏文・西文では «…» と 〈 … 〉 を、独文では ‚…‘ と „…“ を用います。
・欧文ではいずれも、引用符で囲んだ箇所は前後の語との間に空白を入れます（仏文ではさらに、括弧の内側にも空白を入れます)。
・これらの引用符は、和文では使わないでください。
・引用符の中に引用符がある場合については、#括弧の入れ子を参照してください。

８．５．２．かぎ括弧

・かぎ括弧「……」は次の場合に使います。
　・対話・引用語・論文名・特に地の文と分けたい言葉
・二重かぎ括弧『……』は次のものに使います。
　・書名・雑誌名・CD アルバム名・映画名・テレビ番組名・コンピューターゲーム名（例：夏目漱石『坊っちゃん』(岩波文庫)）
　・比較的長大な作品などの名称（詳細は#著作物名を参照してください）
・言葉を地の文から際立たせるだけのために、二重かぎ括弧『……』で囲まないでください。入力を'''……'''として強い強調（太字）にすることもできますが、強い強調にするほどでもなければ、文章を工夫してその言葉が目にとまりやすくすることが望まれます。
・かぎ括弧の中にかぎ括弧がある場合については、#括弧の入れ子を参照してください。

８．５．３．丸括弧・波括弧・角括弧

・Unicode では、丸括弧（……)・波括弧｛……｝・角括弧［……］にはいわゆる半角のもの（JIS X0201 で規定されているもの）のほかに、全角形の（……)・｛……｝・［……］が規定されています。
　・括弧の中にいわゆる半角の文字だけがある場合は、いわゆる半角の括弧を用います。
　・括弧の中にいわゆる全角の文字のうち、漢字・仮名・和文記述記号がある場合は、全角形の括弧を用いるべきだという意見と用いないという意見の 2 つがありますが、目下の合意はありません。
・いわゆる半角の括弧を用いる場合は、以下の例外を除き、括弧の外側に空白を入れます。
　・直前に、ほかの開き括弧類がある。直後に、句読点やほかの閉じ括弧類が続く。
　・直前や直後に、和文の句読点や和文の括弧類がある。
　・括弧が固有名詞や型式番号などの一部で、括弧の前や後を空けずに表記される。
　・段落の始まりや終わり。
・記事名については、次の点にも注意します。
・記事名に曖昧さ回避のための丸括弧を用いる場合は、中の文字にかかわらず、いわゆる半角の丸括弧（……）を用います。

・全角形の丸括弧を用いる場合

「軍令および軍律（Orders and Regulations)」と呼ばれる厳しい規律（特に禁酒禁煙は絶対）を守るには、何より謙虚さと克己心が要求される。

・用いない場合

「軍令および軍律（Orders and Regulations)」と呼ばれる厳しい規律（特に禁酒禁煙は絶対）を守るには、何より謙虚さと克己心が要求される。

８．５．４．亀甲括弧

・亀甲括弧〔……〕は引用文中に引用者がコメントを入れるときに用います。

８．５．５．括弧の入れ子

・括弧の入れ子は、次のようにします。

・「」の中で「」を用いる場合には「『』」とします。

・丸括弧類については、[（〈〉）] の順で入れ子にします。

・数式では、[{()}] の順で入れ子にします。

・英文では、“... ‘...’ ...” で入れ子にします。‘...’ 内で入れ子にするときには ‘... “...” ...’ とします（上記のとおり、"... '...' ..." などとすることもできます)。

８．６．空白

・原則に則って、半角空白「 」を使用します。全角空白「　」を使って字下げ（インデント）したり、縦位置をそろえたりしないでください。

例： 空白によって縦位置をそろえる例。フォントによってはうまくそろわないかもしれません。

長嶋茂雄 右投右打

王貞治 左投左打

備考：段落頭の字下げは、ユーザスタイルシートを使えば閲覧の際に実現できます。例えば、スキンにモノブックを使っている場合には Special:Mypage/monobook.css に p{text-indent: 1em;} と書いて保存し、強制リロードを行えば結構です。

８．７．以降の省略表記

3 点リーダー「…」を用い、「–」（ダッシュ・ダーシ）や「—」（横線）は使わないでください。

８．８．ハイフン

アルファベットのハイフンには、いわゆる半角マイナス（ハイフンマイナス）「-」を用いま

す。いわゆる全角ハイフン（または 2 分ダッシュ）「 - 」は用いないでください。

・期間を表すときには、ハイフンを用います。

例： 1990 年 - 1999 年

８．９．長音符号

カタカナで音を長くのばす符号「ー」を長音符号（または音引）と呼びます。たとえば、「ゲーム」のゲとムの間に挟まれた記号のことです。長音には「ー」を用い、ハイフンマイナス「-」・マイナス「−」・全角ダッシュ「−」・横線「—」・ハイフン「 - 」は使わないでください。またダッシュやハイフンに長音符号は使わないでください。

８．１０．波ダッシュ

波ダッシュおよび（全角）チルダについての表記ガイドを述べます。

全角チルダ「～」(Unicode: U+FF5E)・チルダ「~」(Unicode: U+007E)は使用しないでください。

波ダッシュ・波ダーシ（「Wave Dash.svg」など）は原則として用いず、半角(JIS X 0201)にあるハイフンマイナス「-」で代用します。この理由は、波ダッシュ「～」(Unicode: U+301C)が、コンピュータ OS およびフォントによっては上下逆の波形「Wave Dash2.svg」で表示されることがあるからです。

波ダッシュを固有名称などでやむを得ず使用する際には、原則として「～」(Unicode: U+301C)を必要最小限に用いてください。

この場合、波ダッシュ「～」(Unicode: U+301C)の入力は、Windows 環境では、通常のキーボード入力（すなわち「全角チルダ」となってしまう入力）は避けて下さい。

８．１０．１．波ダッシュを記事名に使用する場合

波ダッシュを記事名に使用する場合は上記に従い、U+301C「～」を用いますが、以下のルールを用います。

・新規記事は U+301C「～」にしますが、U+FF5E「～」からのリダイレクトを作ることを強く推奨します。

・既存の記事を U+301C に移動した場合、残った U+FF5E のリダイレクトを当面の間存続します。

・U+FF5E のリダイレクトの削除については、時機を見てプロジェクト全体の議論にゆだねます。

８．１１．リーダー

3 点リーダー「…」を用い、2 点リーダー「‥」は使わないでください。

・欧文に使う場合は 3 つの半角ピリオド「...」を用います。

８．１２．丸

丸は「○」を用い、漢数字のゼロ「○」や大きな丸「◯」は用いないでください。

８．１３．罫線

罫線素片は使わないでください。代わりに、HTML の table タグを用います。

８．１４．繰返し符号

繰返し符号(踊り字)とは「ゝゞ〳〵仝々」のようなもののことです。繰返し符号は「人々」のような単語につく「々（同の字点)」以外は原則として使わないでください。

・固有名詞は例外とします。

例： いすゞ自動車

９．略記号

元号や物理単位、名称などについて、全角 1 文字分の略記号［cm・(株）など］は使用しないでください。

１０．数字

・数字は原則としてアラビア数字を用います。

例： 1 月・100 円・3,000 ドル

50 冊・1 本・約 10 年

明治 3 年・3 時 30 分

3.14・ナポレオン 3 世

・桁の多い数に区切りを入れる場合には、次のいずれかによる。分野ごとの確立した慣習がなければ 1 番目の使用を推奨する。本文と表・グラフなど、場合によっては同一記事中で併用してもよい。

1.4 桁ごとに「万」「億」「兆」などを入れる。「千」以下については、表・グラフで使用するとき以外には入れない。小数部分については「割」「分」「厘」などを使わず、適切な間隔で半角スペースで区切る。また、カンマ区切りとは併用しない。

例： 38 万 4400 キロメートル

80 兆 0123 億 0022 万 0003 円

π = 3.14159 26535 89793 23846

2.整数部分については、3 桁ごとにカンマを入れる。小数部分については、適切な間隔で半角スペースを入れる。

例： 384,400 キロメートル

80,012,300,220,003 円

π = 3.14159 26535 89793 23846

3.指数表記にする

例： NA = 6.0221415 × 1023 mol−1

・日付については#年月日・時間を参照

１０．１．漢数字

以下の場合には、漢数字を用いることができます。

・概数表現で、漢字が数字に置き換えられている場合。

例： 何百人・十数年

数十日・十余日

・固有名詞などで項目名になりうるもの。

例： 五色不動尊・内田百閒

御三家・三国同盟

百年戦争・正十二面体

・紙幣・貨幣の額。

例： 一万円札・百円玉

・熟語表現や慣用表現。

例： 柔道三段・三振・一所懸命

・正式表記に漢数字を用いている場合。（正式表記と確認できる場合だけ）

例: 新港一丁目

１０．２．ローマ数字

ローマ数字（IV・vi など）は使用しないでください。

・固有名詞の場合は使用可。半角英字（i や V など）を並べて表記します。

例： 聖飢魔 II・ドラゴンクエスト III そして伝説へ…

・化学物質で物質名に付加される酸化数の場合も、半角英字（i や V など）を並べて表記できます。

例： 硫酸銅(II)

１０．３．丸数字

丸の中に数字が入った丸数字は使用せず、代わりに (1)・(2)・(3) を使用します。

１１．単位

・単位は原則として片仮名・漢字で書きます。

例： m → メートル

（角度）30 ° → 30 度

・以下の場合はアルファベット（半角）などによる単位記号を用いることができます。

・単位がその項目内でリンクとなっており、リンク先に説明がある場合。

・表中で片仮名が煩雑なとき。

・bps など片仮名で書かない慣習のもの。

・物理単位（半角）と数値（の数字）（半角）との間には半角スペース 1 つ（TeX 表記する場合は「¥,」）を入れます。

・できるだけ SI 単位系（メートル法を含む）を用います。

・慣例ある分野では尺貫法やヤード・ポンド法を用いることができます。

・この場合でも、できるだけ SI 単位系での換算を併記します。

・温度は、摂氏度またはケルビンを用います。 摂氏 30 度を 30 ℃とすることもできます。

１２．年月日・時間

以下は記事の中で年月日・時間について記述する場合に適用します。著作物の名前に年月日・時間が含まれる場合など「固有名詞」には適用しません。また、引用する場合にも適用しません。

・西暦を原則としますが、和暦（元号が定められていない場合は天皇在位年）も併記することができます。

例： 2006 年（平成 18 年）、622 年（推古天皇 30 年）

・西暦は原則として 1582 年 10 月 15 日以降はグレゴリオ暦、それ以前はユリウス暦を使用します。グレゴリオ暦とユリウス暦にまたがるような場合には、グレゴリオ暦かユリウス暦かを明記することが望まれます。

・日本に関する事柄の場合は和暦（昭和・平成など）を併記することが望まれます。イスラームにおけるヒジュラ暦、フランス革命時における革命暦なども同様に、できれば各国の元号を併記することが望まれます。

・和暦においては、太陽暦移行（1873 年（明治 6 年）1 月 1 日）以後は新暦を、それより前は原則として旧暦を用います。

・西暦と和暦を併記した場合は、和暦は年号だけのリンクにします。

例： [[2000 年]]（[[平成]]12 年）[[3 月 4 日]]

例： [[1869 年]][[2 月 15 日]]（[[明治]]2 年[[1 月 5 日（旧暦)|1 月 5 日]]）

・原則として西暦を先に表記します。しかし旧暦を採用している時期などで、出典から正確な西暦の日付を特定できない場合などには、それ以外の暦を先に表記することができます。
・西暦は全桁（ぜんけた）表示とし、アポストロフィ（'）やシングルクォート（’）、コンマ（,）などは付けないでください。
　例： '06 年 → 2006 年
　例： [[60 年代]] → [[1960 年代]]
　・紀元前の年代は、紀元前 474 年のように「紀元前」を含めます。
・年月日には「年」「月」「日」を用います。
　例： 2003/02/01 → 2003 年 2 月 1 日
・「03 月 05 日」のような 0 を入れた書き方は、リンクが正しくされないので使わないでください。
・リンクを付ける場合は年と月日との 2 つに分け、474 年や 12 月 13 日のように数字だけでなく「年」「月」「日」まで含めます。
　例： [[2003 年]][[2 月 1 日]]
　・月日はまとめます。
　　例： [[2 月]][[11 日]] → [[2 月 11 日]]
・年度は「2004 年度」のように表記します。ただし、日本の会計年度以外のものについては年度表示を避けたほうがよいです。
・時刻は 24 時間表記とします。ただし、慣例的に 12 時間表記や 24 時間を超える表記（26 時＝翌日 2 時など）などを用いる分野において、それを用いることを妨げません。
　例： 午後 3 時 → 15 時
・時刻の表し方には「時」「分」「秒」を用います。ただし表の中に記述する場合に限り、慣例的に「:」（半角コロン）を用いる分野の場合や横幅を減らすために、それを用いることを妨げません。
　例： 11:58:33.6 → 11 時 58 分 33 秒 6
・半期は「上半期」「下半期」を用います。
・四半期は「第 1 四半期」「第 2 四半期」とします。
・記述を行う時点の状況を説明する際、単に「現在」や、「{{CURRENTYEAR}}年{{CURRENTMONTH}}月現在」のように現在日時に連動するマークアップを用いるのは適切ではありません。かわりに、記述時点の日時を「2012 年 6 月現在」のように直接記載するようにしてください。

１３．数式

・変数・関数・物理定数・微小差分の d などはすべてイタリック体を用います。
・その他の数学記号・複数字の関数など・単位・数字は立体（ローマン体と一部で呼ばれる）を用います。
　例：f(x), log|xsinx|
・ベクトル変数・数の集合はボールド体（太字）かつイタリック体を用います。
　例：r = (x, y, z)
　・TeX を用いる場合は¥mathbf ではなく¥boldsymbol を用います。
・行列変数は大文字かつイタリック体を用います。（ボールド体にはしない）

１４．人名

・人名に肩書・敬称・学位・位階・勲などは付けないでください
　例：　サー・ウィンストン・チャーチル → ウィンストン・チャーチル
　・皇族・王族などで付けることが慣習となっているものは例外とします。
　　例：　後醍醐天皇
・故人において、人名の前に故を付けたり、人名の後に（故人）や（物故者）を付けたりしないでください。

１４．１．日本名以外の人名

日本語人名（日本名）以外の人名は原則として片仮名書きにします。ただし、漢字表記を日本語読みする場合には平仮名を使います。
・朝鮮語人名（朝鮮名）については次のようにします。
　・第二次世界大戦後の人物の名前について、漢字表記と片仮名表記のどちらを取るかは、慣習に合わせます。片仮名表記や漢字表記の読みは、原音を優先します。
　・第二次世界大戦前の人物、あるいは在日朝鮮人・韓国人の名前については、日本語読み・漢字表記を原則とします。
・中国漢字人名（中国名）については、漢字表記・日本語読みを原則とします。仮名表記が慣習になっている場合はそれに従います。
・姓名やミドルネームなどの区切りには「・」を用います（#中黒も参照してください）。 ただし、通常、「名・姓」の順番で表記される人名を「姓・名」の順で表記する場合は姓と名をコンマ（,）で区切ります。
・姓や名などの中にハイフンが入る際には＝（全角等号）で区切ります。
　例：クロード・レヴィ＝ストロース（Claude Lévi-Strauss）

１５．地名

日本以外の地名は、現地読みを片仮名書きします。ただし、漢字表記を日本語読みする場合には平仮名を使います。もちろん、別の表記が慣習になっている場合はそれを用いることもできます。

・朝鮮・韓国の地名は、原音表記（漢字表記付記）、または漢字表記（原音表記付記）のどちらでも構いません。

・中国の地名は、漢字表記を原則とし、原音表記を付記します。もちろん、別の表記が慣習になっている場合はそれを用いることもできます。

　例： 北京（ペキン）・上海（シャンハイ）・天津（てんしん、ティエンチン）

１５．１．国名などの「旧」表記

・歴史上の国々に「旧」をつけないでください。

　例: 1979 年のソビエト連邦によるアフガニスタン侵攻

・体制が消滅した後の出来事に関しては「旧」を使うことができます。

　例: 旧ソビエト連邦の国々への NATO の拡大

１６．著作物名

・固有名詞でないものは括弧など特別な修飾を付けないでください。

　例： 交響曲 第 9 番 作品 95 『新世界より』

・比較的長大な作品あるいは作品群（書名・雑誌名・交響曲などの曲名・組曲などの名称・CD などのアルバム名・映画名・戯曲名・テレビの番組名・イベント名・大会名など）は、和文では『 』で囲み、欧文では（入力を"……"として）イタリック体にします。

　例： 『海辺のカフカ』・『動物の謝肉祭』・Yesterday ... and Today・『ローマの休日』・『報道ステーション』

・比較的短小な作品や作品群に含まれる単一の作品（論文名・書中の章名・短詩の名・交響曲などの楽章名・組曲中の曲名・CD などのシングル名・シングルやアルバム中の曲名・テレビの企画名・話名など）は、和文では「 」、欧文では、英文における “...” または各言語においてそれに相当する括弧で囲みます。

　例: Nature “Molecular Structure of Nucleic Acids”・『展覧会の絵』「プロムナード」・Yesterday ... and Today “Yesterday”・『古畑任三郎』「ラストダンス」

・リンクに『』や"などの記号を含めないよう注意します。

・タイトルに「!」「?」を含み、あとに文が続く場合は半角スペースで間を空けます。

　例： RUN! RUN! RUN!

１７．学術用語

学術用語は、原則として文部科学省が版行した『学術用語集』に準じます。

１８．略語・略称

・略語・略称については、そのページでの初出時に正式名称を表記します。

例： IMF（国際通貨基金）

・ただし、その略語がリンクである場合、リンク先に正式名称が表記されていれば省略することができます。

１９．俗語・俗称・隠語・業界用語

・俗語・俗称・隠語は、原則として使わないでください。

例： 特ダネ・サツ（警察）

・もちろん、一般に定着し、置換えが難しいものは使用することができます。

例： カラオケ

・ごく一部でしか通用しない業界用語は使わないでください。

例： イラレ → イラストレータ・ズージャ → ジャズ

２０．差別語・差別表現

ここでは、差別表現でしか用いられなくなった言葉を、差別語とします。差別語は百科事典の説明としてやむを得ない場合を除いて、使わないでください。差別表現と思われる場合には穏当な表現に書き換えます。ただし、差別表現は文脈によって生まれるものなので、安易に差別語と決め付けないように注意します。